

カーボンプライスについての論点

## 1 多様な手法 特にエンジニアリングアプローチと市場アプローチ

ロナルドコースの議論 多様な手法の中から取引費用を中心に最適な手段を選ぶ

色々な手法にはそれぞれに特徴があり、全てをうまく利用していくことが重要

市場的手法だけではうまくいかないが、市場的手法抜きでもダメだろう。

市場的手段は使うか否かに関わらず市場メカニズムは働く、ただし歪んだ形で、

カーボntaxがなくても全ての経済活動には価格付けが伴う

政策のための最終的な目標は 消費者主権、生産者保護？

## 2 . 市場的方法について考える

エンジニアリングアプローチの問題点

原子力発電、太陽光発電など、

将来の技術的な条件の不確実性

上からの手段の設定の意義と限界

人々のインセンティブを変える

影響が潜在的に多くの人に及ぶ

多くの人を巻き込むことの重要性 ( 国民全員参加 )

まだ世に出ていないイノベーターにまで及ぶ価格設定

生活スタイル、都市の姿、イノベーション、産業構造の姿に影響

多様な面で社会を好ましい方向に導くためには正しい価格体系が必要

正しいイノベーションの方向とは？

好ましい都市の構造の変化とは？

産業構造はどの変化していくべきなのか？

イノベーションなしに大幅な排出ガス削減は困難

破壊的なイノベーションの重要性 ( しばしば新規プレイヤーによる )

誰かがイノベーションを起こすと口を開けて待っているわけにはいか

ない

イノベーションが起きやすい価格体系の重要性

影響は長期に及ぶものである

その最終的な姿があらかじめ特定できるものではない

短期的な影響（弾力性）の問題、時間軸の重要性

方向性を示すことの重要性

カーボンリーケージの問題

グローバルレベルでの資源配分との整合性

### 3 . 手法の影響と効果の精査

カーボンタックスと排出権取引の違い

価格か量か、という大きな問題

対象となる経済主体（排出権取引は対象をあらかじめ設定する必要あり）

### 4 . 税収の利用のあり方

価格効果（これが市場的手法のエッセンス） ピグー税と呼ばれるもの

税収をどう利用するのかは大問題